



ガーター器で たてスレッドができます

1. たて編みスレット

メリヤス編みの裏編み面全部、または任意の個処へたて糸で直線、斜めに好みの模様を織りこんだものを云います。

ガーター器を使用しますと、かんたんな部品をつけただけで、200目、150目、100目、50目と目数により使いわけて、たやすくたて編み模様ができます。

2. たて糸の長さ

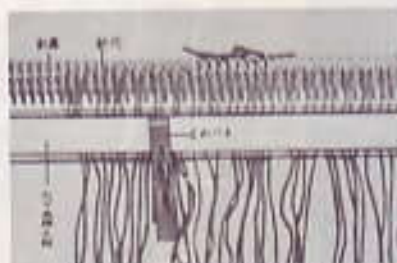
直線、斜め、飛びたて編みと色々種類がありますので試し編みをした時たて糸の長さを計る様おす。めします。たて糸は編み丈の約五倍必要です。

3. 使用法

イ、まずたて糸をガーター板の針溝側に出る様針穴に通します。この場合ショールの様に140cmのものを編む時は $140\text{cm} \times 5 = 700\text{cm}$ 約7mの糸が必要になる為、ガーター板に通す糸が14mになり糸はしを合わせる事が大変です。その時は糸はし(7mと7m)をガーター板の針穴に通してから結びます。車別売りの糸通しを使うと便利です。

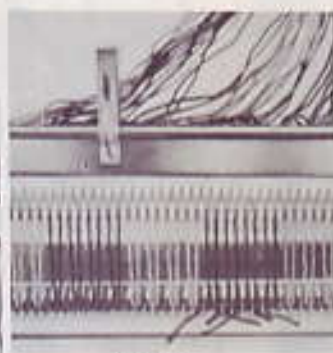


糸通し



C 図 ↓

A 図 ↑



B 図 ↑



D 図 ↑



E 図 ↑



F 図 ↑

ロ、糸を通し終ったら、たて糸をガーター板と押え板ではさんで、止めバネ2ヶで左右をとめます。

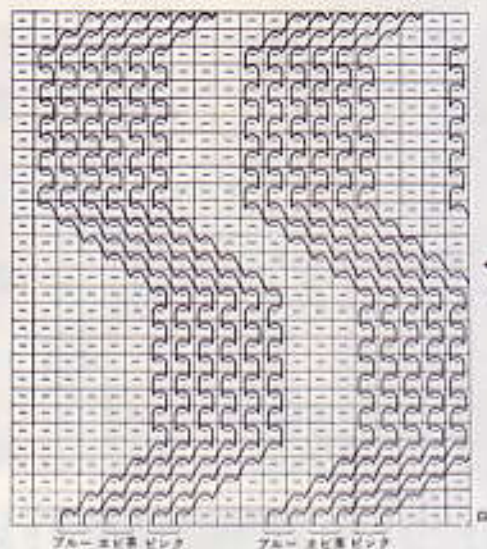
(注)ガーター板がおもりになりますから、たて糸の本数が少ない場合、左右の釣合がとれる様にして下さい。

ハ、編みはじめはたて編みをするところまでメリヤス編みをして、メリヤス針を全部手前まで出し、ストッパーで止め、編み地をガーター板に移し取ります(ガーター器説明書1図参照)次にたて糸を通したガーター板

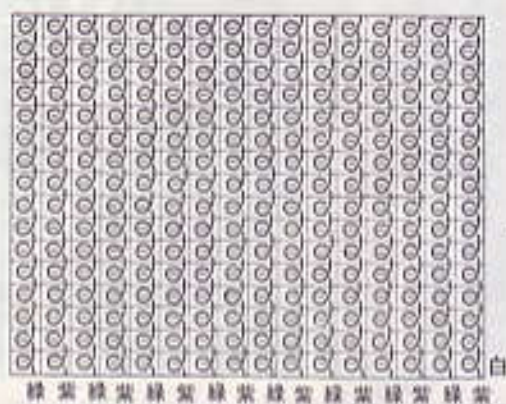
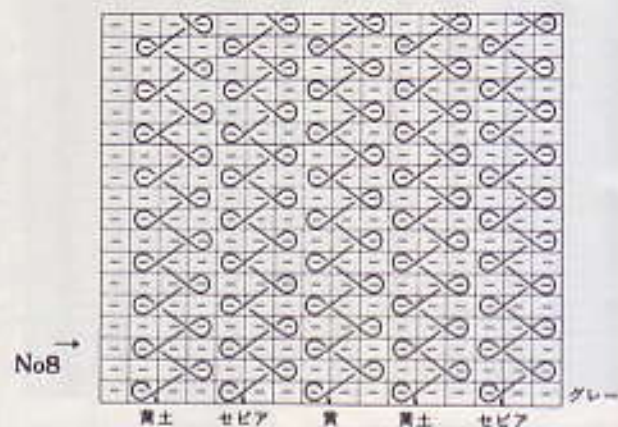
を立て針穴に通した糸のループがメリヤス針の下側になる様にして、ガーター板を上引きします(B図)そのガーター板を編機本体の上に置き、ガーター板に移した編み地をメリヤス針にかけてから、たて糸を通したガーター板を編み地の前に下ろします(C図)

ニ、編みはじめの操作が終了したら一段編みます。たて糸が下っているガーター板を両手で持って糸がたるまないよう、しかもメリヤス針に平行にして針の間を手前に軽く引きながら上げ(D図)右側或は左側の針に掛け(E図)ガーター板を返し地糸を編みます。(※メリヤス針のベラが開いてないと糸がかけにくい)

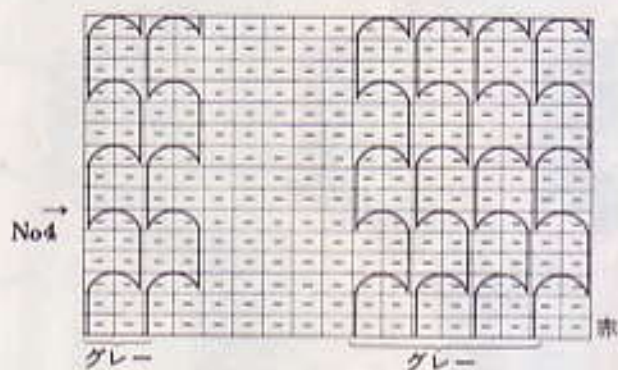
ホ、たて編みが終了したらメリヤス針を手前に出し、ストッパーで止め、編み地を裏に押したて糸を通したガーター板を上げ、編機本体に置き、編み地を別のガーター板に移し取って(F図)メリヤス針よりはずし本体に置いたガーター板をうしろ側に下ろしてから編み地をメリヤス針に戻して一段編みます。糸はしはとなり同志で結びます。



No2



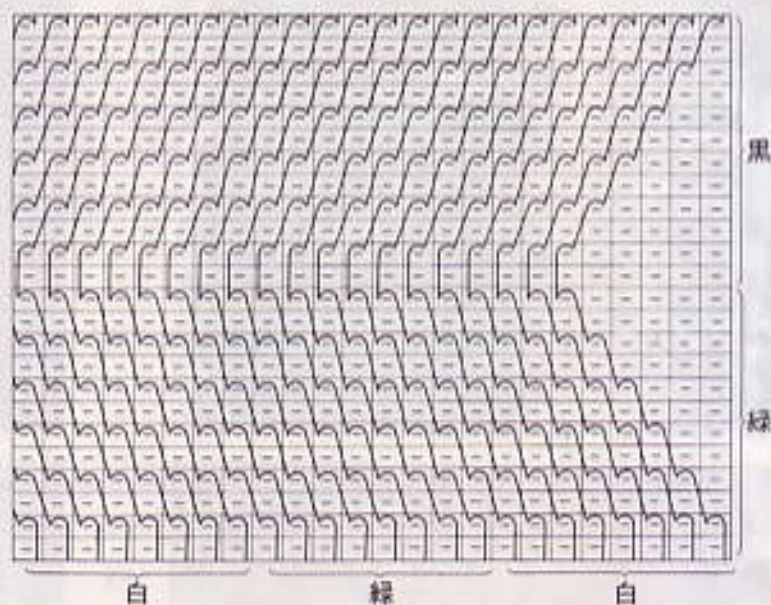
No1



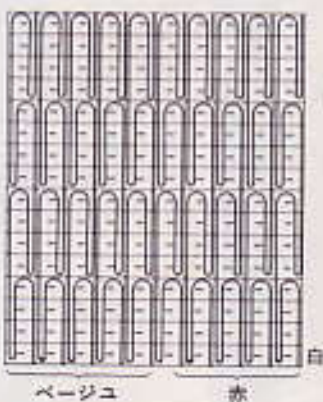
No6



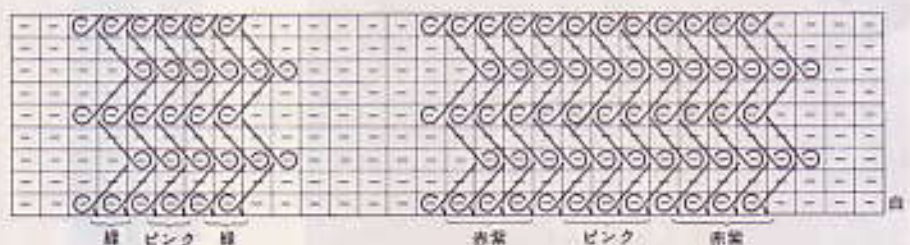
No5

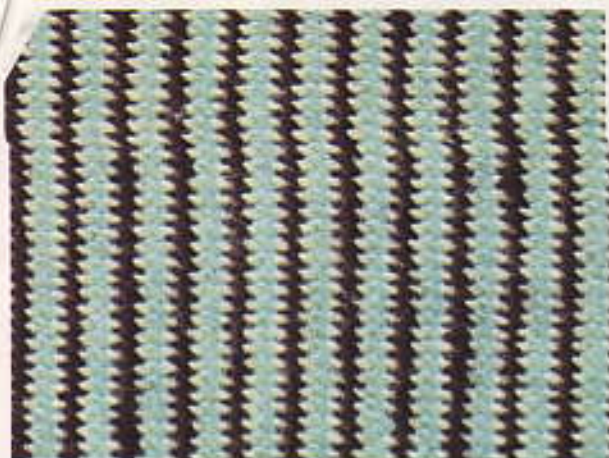


No3



No7





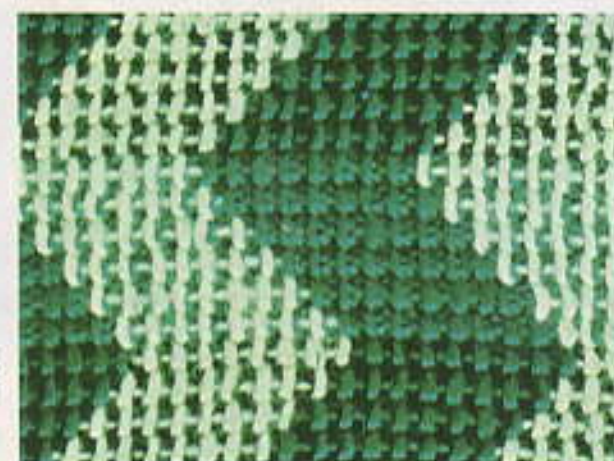
No 1



No 5



No 2



No 6



No 3



No 7



No 4



No 8